

enocoのそうだん [eno so done!]

相談シート10 アートを活かした文化施設と商店街の連携とは

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> 相談シート10

アドバイザー

甲賀 雅章 (enoco館長/大道芸ワールドカップIN静岡プロデューサー)

1951年静岡市生まれ。1985年株式会社シーアンドシー、1991年株式会社シーアイセンターを設立。広義の意味でのデザイン、文化戦略を21世紀型経営の最重要資源として位置づけ、企業、組合、商店街、地方自治体等の活性化におけるコンサルティング活動を展開。1992年から大道芸ワールドカップIN静岡を立ち上げプロデューサーを務める。2009年地域・社会の問題をデザイン思考で解決すべく、ソーシャルデザイン研究所を設立。2011年6月静岡県榛原郡川根本町千頭、山間の里にCafe&Gallery「Ren」をオープン。2012年からはenocoの館長として企画運営に携わっている。



相談者

枚方市立御殿山生涯学習美術センター、御殿山渚商店会

相談分野 (キーワード)

地域活性

市民協働

観光

まちづくり

文化

広報・PR

その他

主な相談内容

商店街と市の文化施設が近接していることを活かして、相互の集客向上を目的に商店街を会場としたアートイベントを実施しているが、今のやり方で良いのかどうか分からない。

Q 1

センターも商店会もPRが下手。どうすればよいでしょうか。

A 1

関係者だけでやろうとすると、労力や広報のチャンネルが限定されてしまうので、他者を巻き込む方法を考えるべきです。例えば実行委員会形式にして、そこに学生や住民を巻き込むことができれば、彼らがSNSや口コミで情報を拡散することが期待できます。

また、アートイベントはあくまで商売とは切り離して考えるべき（結果的に商売に繋がることが目的だとしても）。商売色を出してしまうと、地元や行政の協力が得られにくいので、アートはあくまで商店街の存在を知ってもらうためのツールと考えること。またセンターから情報を発信してもらえば、「商売」ではなく、商店街を会場とした文化的な催しとして認識してもらいやすい。そういう意味では、商店街の問題解決ではなく、御殿山全体の地域課題として取り組む視点が共有できるとよいでしょう。

Q 2

アートを活かしたイベントを盛り上げる工夫について教えてください。

A 2

出来上がった作品を単に展示して鑑賞してもらだけでなく、来訪者が主体的に創作に関われる参加型の内容にしてはどうでしょうか。例えば空き店舗などを会場にしてワークショップ会場を設え、気軽にアーティストと創作を楽しめるプログラムを組み込むなど。作家に作品を展示してもら場合も、アーティスト自ら展示場所を選んでもらって、その空間に応じたいわゆるサイトスペシフィックなインスタレーションを制作してもらると、その場所に固有のオリジナルな作品となります。

サイトポリシー・
プライバシーポリシー

指定管理者

バナー広告募集

> enocoについて

> 事業紹介

> フロアガイド

> レンタルスペース

> お知らせ・プレスリリース

> メルマガ登録

> ニュースレター

> お問い合わせ

> アクセス

いいね! 0

ツイート

